種名	**ヒ　バ　リ** Alauda arvensis
分類	**スズメ目ヒバリ科**
特徴	**広い草原に棲み、高い空で朗らかな声でさえずる鳥。主にユーラシア大陸の温帯から亜寒帯で広く繁殖する。日本では北海道から九州までの全国で繁殖し、積雪の多い地方に棲む個体は、冬期は暖地へ移動する。冬鳥として大陸から渡来する個体もある。**
生活	**畑、牧場、草原、川原、埋立地などに見られるが、丈の低い草がまばらに生えて、露出した地面の多い所を好む。採餌は地上を歩きながら行い、草の実や昆虫が主な餌である。繁殖期にはつがいで縄張りを張り、オスは春早くから草原の上空で停空飛翔しながら、長時間さえずって縄張りを宣言する。非繁殖期には小群でみられることが多い。水浴びはせず、砂浴びを行う。**
声	**繁殖期には「ピィピィ、リリリ」などという。細やかな声でせわしなく鳴き続ける。主に飛翔中にさえずるが、杭や石の上にとまってもさえずる。地鳴きは「ピルッピルッ」という声で、草の上を低く飛びながら鳴くことが多い。**
見分け方	**目立つ冠羽、赤褐色の雨覆、目の周りにしわがあるような顔つきで、他のヒバリ類と区別できる。**

時期：寒地	(月)	―	―	3	4	5	6	7	8	9	10	―	―
：暖地	(月)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

その他	**全長 (L) 17cm　翼開長 (W) 32cm**

参考文献：山渓カラー名鑑　日本の野鳥